

港を彩る 国際信号旗

第12回神戸学院大学図書館 - 神戸海洋博物館展示では、国際信号旗を展示しています。

2013年4月8日(月)
～9月20日(金)

展示期間中の開館時間・休館日

期間	平日	土曜日	日曜・祝日
4/8～4/28	9:00～21:00		休館
4/29	9:00～21:00		
4/30～6/30	9:00～21:00		休館
7/1～8/6	8:45～21:00		
8/7～9/20 (8/11～8/20は夏期休館日のため閉館)	9:00～18:00	9:00～17:00	休館

※開館時間や開催期間は変更になることがあります。
図書館HP、掲示にてご確認のうえご来館ください。

展示風景



掲載写真解説

- 表紙：クルーズ船「エクスプローラー」入港歓迎風景(2010年)
※帰港を歓迎して「U旗+W旗+数字旗3」を港にて掲げている。
- ①「あこがれ」入港風景(2011年)
※「N旗」で、船舶が入ってくる時ブリッジの位置を知らせている。
 - ②練習帆船「日本丸」入港歓迎風景(2010年)
※入港を歓迎して「U旗+W旗+数字旗2」を港にて掲げている。
 - ③「プリンセス・ダフネ」入港歓迎風景(2011年)
 - ④「銀河丸」出港風景(2012年)
※24時間以内出航を意味する「P旗」を掲げている。
 - ⑤練習帆船「日本丸」出港時の登橋礼のようす(2010年)
※登橋礼(とうしょうれい)“Man the yards”：帆船が出航する時に、実習生が全ての帆げた(ヤード)に登り、見送ってくれた人々に「ごきげんよう」と一斉に呼びかける帆船最高の儀礼のこと。
 - ⑥帆船フェスタのようす(2007年)
操舵室内に国際信号旗収納箱がある。(写真上部)
 - ⑦Kobe みなとマルシェのようす(2010年)
 - ⑧満船師の「早美丸」
満船師：特別な行事等に祝意を表すために、船首から各マスト、船尾にわたって、社旗、船籍国旗、そして国際信号旗などを綴り合わせて掲揚するもの。

図書の紹介



『ビジュアルでわかる船と海運のはなし』
拓海広志著
【ポニーアイ館 683/TAK/B】
航海に関する基本知識や港の役割、海運が物流の中で果たしている機能を、写真や図版を多く用いビジュアルに、やさしく解説している。貿易・物流を目指す学生や貿易会社物流会社の若手社員への入門書として最適な本である。



『プロが教える船のすべてがわかる本』
池田良穂監修
【ポニーアイ館 550/PUR】
船ができるまでから船のしくみ、海運業にいたるまで、船の事が全く知らなくても、カラー写真付で分かりやすく解説されており、正に「船の解体新書」ともいえる本である。

編集後記

このSea Scapeの作成にあたり、さまざまな船舶信号を知ることか出来ました。なかでも国際信号旗は、旗を掲げることで継続的に相手側に信号を送り続けることが出来るメリットがあると知りました。

また以前、映画で観た「コクリコ坂から」で主人公が掲げていたのは2字信号UWで「安航を祈る」だったこと、それを受けて友達が掲げていたのは回答旗+2字信号UWで「(返答として)ありがとう」だったことを改めて知りました。

資料の中で、一番印象深かった写真は、日本丸出港の登橋礼の写真です。白い服を着た沢山の船員の方達が、ヤードに上がって、まさしく人が帆になっているような写真です。船員の方々があんなに高い所に登り、敬礼、挨拶しているのを見たら、きっと感動で胸がいっぱいになると思います。実際に、登橋礼のシーンを見たいと思えた一枚でした。

是非、皆様もこの展示に足を運んでいただき、港を彩った国際信号旗と、それにまつわる船の話を知っていただけたら幸いです。ご来館をお待ちしております。

参考文献：・『国際信号書』海上保安庁監修，日本海峽経済会，1990
・『プロが教える船のすべてがわかる本』池田良穂監修，ナツメ社，2009
・『ビジュアルでわかる船と海運のはなし』拓海広志著，成山堂書店，2007
・『船の信号と通信』～2004年度公開講座～ <http://cs.maritime.kobe-u.ac.jp/Koza04.pdf>
若林伸和，神戸大学 海事科学部 海事技術マネジメント学科 若林研究室，2004
・『マッキーの海の常識』，海上保安庁 <http://www.kaiho.mlit.go.jp/09kanku/fushiki/topic/joshiki/joshiki-170615.htm>
・『海の雑学－海上で行なう信号について』，海上保安庁 http://www.kaiho.mlit.go.jp/06kanku/imabari/a_introduction/uminozatugaku/zatsugaku/2008/200211.htm
・海上保安庁 TOP <http://www.kaiho.mlit.go.jp/>



International maritime signal flags

国際信号旗

国際信号旗とは、船と船、船と陸上の通信のために世界共通で使われる旗のこと。1855年、イギリスによって信号書の草案が完成され、1857年発行されたのが、国際信号書 (International Code of Signals) の始まりである。現在、アルファベットの文字旗26枚、数字旗10枚、代表旗3枚、回答旗1枚の計40枚の旗を組み合わせて通信を行う。旗の色は、遠くから良く見えるように「白・黒・赤・青・黄」の5色からなっている。

1旗又は数旗の旗を掲揚し、主に航海の安全や人命の安全に関することを信号としてやりとりしている。

国際信号旗による通信を旗旗信号 (きりゆうしんごう) と呼ぶ。

〈信号にはどのような意味が?〉

- 1字信号は、緊急性、重要度が高いメッセージや頻度が高いもの。
- ↓図表①〜④
- 2字・3字信号は、一般的なメッセージや医療関係の通信など。↓図表⑤
- 4字信号は、出入港時や沿岸航海中に、船固有の船名符字 (コールサイン) を示すために用い、船名符字は最初の1〜2字が国籍を表す。

〈船舶信号は、他にどんなものがある?〉

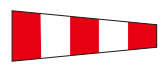
- 手旗信号: 赤旗・白旗を両手に持った状態で動かす。
- 音響信号: 汽笛やサイレンによる信号。長短および回数で組み合わせる意味を持つ。
- 発行信号: 発行信号機により特定の方向へ光を断続的に発射する。昼

図表①-文字旗

	私は、潜水夫をおろしている。微速で十分避けよ。		私は、危険物を荷役中または運送中である。		YES!
	私を避けよ。私は操縦が困難である。		私は、針路を右に変えている。		私は、操縦できない。私と通信せよ。
	私は、水先人がほしい。私は、揚網中である。		私は、水先人を乗せている。		私は、針路を左に変えている。
	私は、火災中で、危険貨物を積んでいる。私を十分避けよ。		私は、あなたと通信したい。		あなたは、すぐ停船されたい。
	本船は停船している。行き足はない。		NO!		人が、海中に落ちた。
	港内: 本船は、出港しようとしているので全員帰船されたい。/ 洋上: 本船の魚網が障害物にひっかかっている。		本船は、健康である。検査交通許可証を交付されたい。		受信した
	本船の機関は、後進中である。		本船を避けよ。		あなたが、危険に向かっている。
	私は、援助がほしい。		私は、医療の援助がほしい。		実施を待て、そして私の信号に注意せよ。
	本船は、走錨中である。 ※船舶が錨 (いかり) を下したまま流されること。		私は、引き船がほしい。私は投網中である。		

図表②-数字旗

図表③-回答旗



図表④-代表旗

第1代表旗	第2代表旗	第3代表旗

図表⑤

		ご安航を祈る。			訓練中 わたしを避けよ。			あなたの行き先はどこか?			私は遭難している。 ただちに援助がほしい。
U	W		U	Y		U	T		N	C	

船の仕事

船の最高責任者が、船長 (キャプテン) である。船員は、職務によって各部門に分かれている。安全運航を確保するために、船の仕事はそれぞれの役割と責任の範囲が、次のようにはっきりと決められている。

甲板部: 航海全般と荷役に関する仕事

機関部: 主機や各種機器の操作、整備、修理の仕事

事務部: 出入港の手続き、通信、厨房などの仕事

水先人 (パイロット) の仕事

世界中の港に寄港する船長が、日本の各港湾の特殊な環境を熟知することは困難であるため、水先人は船長の助言者という立場で、一定の水先区内で船舶に乗り込み、その水路を安全に導く。

また、水先人には、水先できる船舶のトン数に応じた等級の海技免許をもち、船長、もしくは航海士としての一定の乗船歴が必要である。さらに所定の課程を修了し、国家試験に合格しなければならない。

船内の一日のメニュー例

船員たちは、次のような食事をとっている。

【朝食】食パン・コーヒー・オムレツ・牛乳・ソーセージ・サラダ

【昼食】味噌ラーメン・ご飯・春巻き・りんご

【夕食】お寿司・焼き鳥・茶碗蒸し・酢の物

うみの「もしも」は118番

海上保安庁では、海上における事件・事故の緊急通報用電話番号として、覚えやすい局番なし3桁「118番」の運用を2000年5月1日より開始した。

酔い対策

船内で最も酔いにくい場所はどこか。縦揺れ、横揺れ共に中央付近がベストと言われている。

酔いの軽減には、デッキで遠景をみるとよい。

目からも「動いている」という情報が届き、近くの船が解消するためである。他に、2、3日船上で揺られていると徐々に船の運動リズムを脳が予測できるようになり、酔いは軽減する。

